

## 製品安全データシート

作成日 2009年3月30日

改訂日 2025年4月21日

## 1. 化学物質等及び会社情報

製品名	トリメチロールプロパントリアクリレート (Trimethylolpropane triacrylate)
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪府中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス3階
電話番号	06-6563-7710
FAX番号	06-6563-7720
推奨用途及び使用上の制限	UV硬化型インク等

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 JIS Z 7252, 7253:2019 使用

物理化学的危険性	該当する区分なし
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷・眼刺激 区分2A 急性 皮膚感作性 区分1 皮膚感作性 区分1 発がん性 区分2
環境に対する有害性	水性環境有害性 短期(急性) 区分1 水性環境有害性 長期(慢性) 区分1

GHSラベル要素  
絵表示又はシンボル注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
強い眼刺激  
眠気又はめまいのおそれ  
発がんのおそれの疑い  
生殖能力又は胎児への悪影響のおそれ

注意書き

## 【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。  
適切な保護手袋を着用すること。  
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。  
容器を密閉しておくこと。

## 【応急措置】

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当をを求めること。

皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

【廃棄】

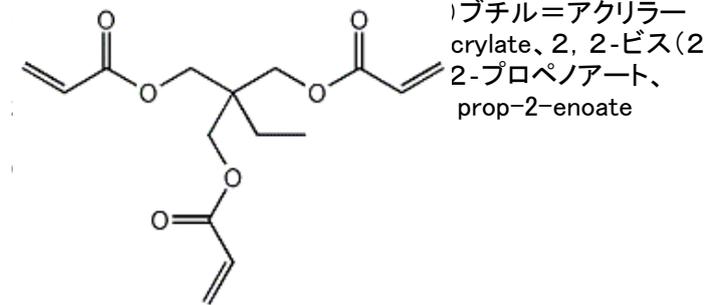
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質

化学名又は一般名  
別名

トリメチロールプロパントリアクリラート



分子式 (分子量)  
化学特性 (示性式又は構造式)

CAS番号	15625-89-5
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	化審法:(2)-1010、(2)-958 安衛法:公表化学物質
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし
濃度又は濃度範囲	100%

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を脱ぐこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候、症状 情報なし

応急措置をする者の保護 情報なし  
医師に対する特別注意事項 情報なし

## 5. 火災時の措置

消火剤 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類  
使ってはならない消火剤 棒状放水  
特有の危険有害性 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。  
激しく加熱すると燃焼する。  
火災時に一酸化炭素、二酸化炭素が発生する可能性がある。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
容器が熱に晒されているときは、移さない。  
安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
水を噴霧して容器類を冷却する。

消火を行う者の保護 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

状況に応じた適切な呼吸用保護具を使用すること。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項 環境中に放出してはならない。  
回収・中和 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

封じ込め及び浄化方法・機材 危険でなければ漏れを止める。  
二次災害の防止策 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項 取扱い後はよく手を洗うこと。  
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
皮膚との接触を避けること。  
眼に入れないこと。

保管 接触回避 『10.安全性及び反応性』を参照。  
安全な保管条件 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
施錠して保管すること。

安全な容器包装材料 遮光して保管すること。  
消防法で規定された容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定  
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

	日本産衛学会(2020年版) ACGIH(2020年版)	未設定 未設定
設備対策		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 状況に応じた適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。
衛生対策		取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状	形状 色 臭い pH	液体 無色 データなし データなし
融点・凝固点		<0°C (Gangolli (2nd, 1999))
沸点、初留点及び沸騰範囲		315.5°C (Gangolli (2nd, 1999))
引火点		300° F (149°C, O.C) (NFPA (13th, 2006))
自然発火温度		データなし
燃焼性(固体、ガス)		GHS定義による液体
爆発範囲		データなし
蒸気圧		0.000563mmHg(25°C, Estimated) [換算値 0.075Pa(25°C, Estimated)] (SRC (Access on Feb. 2009))
蒸気密度		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
比重(密度)		1.10 (25°C/4°C) (Gangolli (2nd, 1999))
溶解度		水: 46.3 mg/L (25°C, Estimated) (SRC (Access on Feb. 2009))
オクタノール・水分配係数		2.75 (GESTIS (Access on Dec. 2008))
分解温度		データなし
粘度		データなし
粉じん爆発下限濃度		データなし
最小発火エネルギー		データなし
体積抵抗率(導電率)		データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラットのLD50値=3.84~7.01mL/kg bw (4200~7700 mg/kg bw) (NTP GMM 3(2005))より区分外(国連分類基準の区分5又は区分外)とした。
	経皮	ウサギのLD50値=200~2000 mg/kg、3.89~10.04 mL/kg (4280~11000 mg/kg)、5170 mg/kg (NTP GMM 3(2005))より区分外(国連分類基準の区分5又は区分外)とした。
	吸入	吸入(ガス): GHSの定義における液体である。 吸入(蒸気): データなし 吸入(ミスト): データなし

皮膚腐食性・刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験の結果、中等度の刺激性 (IUCLID (2000), RTECS (2003))であること、EUの分類では Xi; R36/38であることから区分 2とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験の結果が中等度の刺激性 (IUCLID (2000), RTECS (2003))とあり、EUではXi; R36/38に分類されていることから、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: モルモットによるマキシマイゼーションテストで陽性反応の比率が42%、40%、50%(DFGOT Vol.16 (2001))、70%(NTP GMM 3(2005))であること、さらにDFGの評価は「Sh」、EUの分類ではR43であることから区分 1とした。
生殖細胞変異原性	マウスの13週間の経皮投与による末梢血小核試験(体細胞 in vivo変異原性試験)の結果が陰性(NTP DB (Access on Feb. 2009))であることから区分外とした。なお、エームス試験(in vitro変異原性試験)についても陰性(NTP DB (Access on Feb. 2009))である。
発がん性	マウスを用いた80週間の経皮試験で、塗布した部分に軽度の脱毛と50匹中46匹が表皮の肥厚、38匹に真皮の繊維化が見られたものの腫瘍化しなかった(NTP GMM 3(2005))とあるが、他の動物種および経皮試験以外のデータがないことより分類できないとした。
生殖毒性	ラットの器官形成期に経口投与した試験において着床後の死亡率増加が認められているが(RTECS (2003))、リスト3のデータしかなく分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし
12. 環境影響情報	
水生環境急性有害性	データなし
水生環境慢性有害性	データなし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
汚染容器及び包装	
14. 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
国内規制	
陸上規制情報	消防法の規制に従う。
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

**緊急時応急措置指針番号**

重量物を上積みしない。

**15. 適用法令****消防法**

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)危険等級Ⅲ

**安衛法**

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(1,1,1-トリメチロールプロパントリアクリル酸エステル)

皮膚等障害化学物質等(トリメチロールプロパントリアクリレート)

**16. その他の情報****参考文献**

各データ毎に記載した。